

増穂だより

vol.239



芝浦工業大学柏中学高等学校 〒277-0033 千葉県柏市増尾700番地
TEL : 04-7174-3100(代) FAX : 04-7176-1741
URL <http://www.ka.shibaura-it.ac.jp/>

■編集／芝浦工業大学柏中学高等学校 総務部
■発行日／令和7年3月24日 発行
■印刷／株式会社横浜総合写真



Contents

■巻頭（校長）／全国中学高校 Webコンテスト ……………	2P	■SSH／生徒の取組の紹介／トピックス ……………	6P
■学年情報（中学／高校） ……………	3P	■PTA情報／後援部情報 ……………	7P
■中学合唱祭／高校第43期生卒業式 ……………	4P	■トピックス……………	8P
■生徒探究発表会／高校第43期生卒業式 送辞（抄）／答辞（抄） ……	5P		

図書館をこよなく愛した鉄鋼王のこと

校長 中根 正義

かつて、私は大学院で高等教育機関が地域において果たしている役割を研究していた。その中で、米ペンシルベニア州ピッツバーグ市にあるピッツバーグ大やカーネギーメロン大学が地域の発展に貢献していることに目を見張った。同市はかつて鉄鋼業で栄えたが、産業構造の変化もあり衰退していった。それが1980年代以降、ITや保険、教育、金融、医療などで復活した。その一翼を担ったのが、カーネギーメロン大学などの高等教育機関だった。地域課題に応える人材の育成や研究をしたことが、地域の再生につながったのだ。

同市で鉄鋼業を発展させたのは、鉄鋼王の異名を持つアンドリュー・カーネギー（1835～1919年）である。昨年来、日本製鉄による米大手鉄鋼メーカー・USスチールの買収が話題になっているが、彼は同社の設立に深く関わっただけでなく、ニューヨークにある音楽の殿堂・カーネギーホールを建てた人物であり、同大学の設立者でもあった。

スコットランドからの貧しい移民だったカーネギーは、一代で巨大な鉄鋼メーカーを誕生させた。そして、数多くの含蓄ある名言を残している。

「チャンスに出会わない人間は一人もいない。それをチャンスにできなかっただけである」

「笑い声のないところに成功はない」

「他人を豊かにできなければ、あなたも豊かにはなれない」

彼の死後100年を経ても、その名をとどろかせているのは、事業で手にした莫大な資産を元手に慈善活動に尽力したことにある。寄付総額は現在の価値で3000億ドル、円換算で46兆円以上と言われている。

その功績としてよく知られているのが、米国内にとどまらず、欧州やオセアニアなど世界各地に無料で利用できる図書館を2500以上も建設したことだろう。また、4000以上の教会にオルガンを贈ったり、世界平和のための財団創設や科学教育などに多額の寄付をしたりした。寄付の際は、各施設が地域で自立して運営できるように条件をつけた。

図書館をはじめとする教育関連施設に多額の寄付をしたことは、彼自身が少年時代、貧困ゆえに学校教育をきちんと受けることができなかったことが関係している。無料で本を借りられる図書館で知識を吸収していったカーネギーは後に、「図書館こそ、わたしの大学だ」と語った。

彼の生きざまを振り返り、私は改めて教育の重要性和責任に思いを巡らせた。次代を担う子どもたちや地域のために何をして、何を伝えていけばいいのか——。ただ単に多額の寄付をただけでなく、将来にわたり平和な社会のために貢献する人材を輩出することを考えたカーネギー。彼の思いから、時代を超えて受け継がれる普遍的価値を見だし、目の前の子どもたちのために生かしていきたい、と強く思うのだ。

◇ 全国中学高校 Web コンテスト ◇

高校生の部

2月22日、聖心女子大学にて第27回全国中学高校Webコンテストのファイナリストプレゼンテーションが行われ、高校からは高1のチーム「動作解析5.0」が参加しました。

3分間のプレゼンテーションでは、自分たちが制作したWebサイトの魅力を熱意を持って明確に説明し、それに続く質疑応答では審査員からの質問に対して的確かつ誠意をもって回答していた姿が印象的でした。

最終審査の結果、同チームは総務大臣賞（優秀と認められる作品のうち、総務省の管轄分野・領域に最も近い作品に授与される賞）、プラチナ賞、およびベストCM動画NeuroAI賞（応募作品のCM動画のうち最も広告効果があったチームに授与される賞）を受賞しました。テーマ選定に始まり、ここに至るまでは試練の連続であったと振り返ります。チームの生徒それぞれの強みを活かしながら辛抱強く課題解決にあたり、さまざまな困難を乗り越えて最終的にこのような評価をいただけたことは、生徒たちの今後にとって大きな励みになったと確信しています。

本作品はモーションキャプチャー技術を活用して、現代社会のさまざまな課題をどのように解決していけるのかを取材や調査、チーム内での議論をもとにまとめ上げたものです。右のQRコードより、ぜひ御覧ください。

ご指導・ご声援くださった皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



中学生の部

中学生の部では、2年C組の工藤礼真・中村友奏・伊藤来実さんによる「昆虫食が世界を救う!」がプラチナ賞、最優秀賞・文部科学大臣賞、オーディエンス賞（プレゼン部門）を受賞しました。下のQRコードより、ぜひご覧下さい。

また、3年生による「害獣って怪獣?」と「いのちを繋ぐ：絶滅危惧種保護プロジェクト」が金賞を受賞し、「デジタル時代のいじめ：SNSの影と解決」が銀賞を受賞しました。

以下、最優秀賞を受賞した工藤君によるコメントです。
2月22日に東京都の聖心女子大学ブリット記念ホールで開催された「第27回全国中学高校Webコンテスト」の最終審査に参加しました。審査では、私たちが作成したWebサイトの独自性や工夫した点を発表しました。

このような素晴らしい賞をいただけたことを大変光栄に思います。コンテストを通じて新たな視点を得ることができ、多くの学びがありました。試行錯誤を重ねたことで、チームワークの大切さや課題解決の力を養う貴重な経験となりました。

ここまで支えてくださった先生方や関係者の皆様のご指導、ご協力に心より感謝申し上げます。この経験を今後の学びや活動に活かし、さらに挑戦を続けてまいります。



学年情報

中学1年 小さなことからコツコツと

先日の授業で「今一番欲しいもの」というテーマで子供たちに英語で語ってもらいました。すると1人の生徒が“I want brain.”と答えたのです。“I want to be smart.”の意味でしょうが言いたいことは非常にわかります。その子は「自分は頭悪いからよくなりたい」と言ったのです。よく「僕は頭悪いからわからない」という子がいます。でもこの子は違います。「わからない」のではなく「よくなりたい」という向上心があるのです。自分を少しでも成長させようとする心を持っている子です。そういう子は朝に「今日はこれを頑張ろう!」という小さな目標を立てて、夜にそれが達成できたか振り返るといいでしょう。中1のみなさん、去年の4月に芝柏で何を頑張ろうと思っていましたか？それは達成されましたか？2年生になるにあたり、春休みに2年生の目標を立ててみてはどうでしょう？

高校1年 進路を「意識」する

高校1年を修了するにあたり、生徒の皆さんはこの1年間何を「意識」して生活してきましたか？意識をすることで習慣が生まれ、ときに成果に繋がりました。このように、意識は変化をもたらします。

小学校からの学校生活で「意識」することを求められる場面では、皆一様に同じ事柄を求めることが多かったように思います。例えば「〇〇を大切にしよう」といった規範的な意識は、集団生活を行う為にまた成長する上で大切なものでしょう。

一方で、これから自分の進路を深めて実現する上では、「周りにとらわれず自分で拓く意識」が求められます。これが個儻不羈な高校45期の土台となります。

先日の探究発表会でも、高校1年生の皆さんの個性溢れるテーマ発表が多く見られました。来年度がさらなる充実の年になるよう、様々な活動の場面で皆さんの個性を大いに発揮して下さい。

中学2年 次なる高みを目指して

先日行われた職場体験は数多くの事業所の方々にお世話になりました。仕事を通して、責任やプロとしての考え方に触れ、それぞれの仕事の人々の役に立って社会が成り立っていることを体感したこの経験は、今までとは違った視点から社会や自分を見つめる契機になったことでしょう。

Webコンテストでは、工藤礼真くん、中村友奏さん、伊藤来実さんの3人が制作した作品「昆虫食が世界を救う!」が最優秀賞／文部科学大臣賞に輝きました。中学2年生での最優秀受賞は本校始まって以来の快挙となります。

自分の興味関心を掘り下げて研究することは、自分自身を探究することにほかなりません。来年度もこの取り組みは続きます。さらなる高みを目指して、一人一人がしっかりと自分と向き合ってほしいと願っています。

夢と情熱を持った25期生がどのように芝柏を引っ張ってくれるのか、今から楽しみです。

高校2年 「目に見えない力」の育成

課題研究を「総合的な探究の時間」にて、学年全員が行うようになって3年目となる。今年度は、前年度の継続研究または新たな研究テーマを一つ設定し、探究を進めた。最終的に2/25の授業内にて、高1・2合同の探究発表会を実施した。また、上記以外にGSクラスとSSⅡ選択者は、2/15の生徒探究発表会（※保護者・外部の方参加可能）にて、研究発表を行った。1年前と比べて、更に深まった探究の成果を堂々と発表することができていた。

この2年間の探究において、「目に見えない力」がより多く身についたと考えている。例えば、仮説構築力、批判的思考力、メタ認知能力、協働する力、表現力、粘り強さ、情報活用能力、やり切り力、予測力、判断力……。

月並みではありますが、先人たちの「点滴穿石」「継続は力なり」「努力に勝る天才なし」「塵も積もれば山となる」などの言葉が浮かんできます。この2年間で、最後の1年に繋がると強く信じています。

次年度もお子様を精一杯サポートしていく所存です。引き続き、よろしくお願いいたします。

中学3年 ご卒業おめでとうございます

中学24期193名が卒業しました。お子様のご卒業、おめでとうございます。3年にわたり、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝いたします。

あつという間の3年間でしたが、甘い日も苦しい日もあり、一瞬一瞬は濃密でした。苦しい時には、保護者の皆様、私たち担任団とともに子どもたちの言葉を待ち、傾聴し、承認し、動き出すのをサポートしてくださいました。子どもたちは心に触れてもらっている安心感もあり、とくにこの一年は大人に頼らずに物事を成し遂げる力を身に付けてくれたように思います。本当にありがとうございました。

1、2年生のみなさんへ。皆さんが支えてくれたからこそ、3年生は勇気をもってたくさんすることにチャレンジすることができました。ありがとう。今度はみなさんの番です。頑張ってください。応援しています。

高校3年 3年間ありがとうございました

3月3日（月）、高校43期生321名の卒業式が無事に挙行されました。多くの保護者の皆様にご参列いただき、心より感謝申し上げます。43期のスタートにあたり、目の前の受験だけでなく、大学卒業後の未来を豊かに生きてほしい、そして、自ら考え、決断し、未来を切り開く力を大切にしてほしいとの願いを込め、「自主・自律」を学年目標に掲げました。これからも皆さんの挑戦を応援しています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、この3年間、学校の教育方針や取り組みにご理解・ご支援・ご協力を賜りましたこと、学年団一同、心より感謝申し上げます。



● 中学合唱祭 ●

第 23 回 中学合唱祭結果			
金	賞	3 年 D 組	「YELL」
銀	賞	3 年 C 組	群青
銅	賞	3 年 B 組	3 月 9 日
優秀賞（2 年）		2 年 A 組	「地球星歌 ～笑顔のために～」
優秀賞（1 年）		1 年 D 組	「いのちの歌」
伴奏者賞		3 年 C 組	伴奏者
指揮者賞		3 年 D 組	指揮者
ポスター賞		3 年 C 組	



高校第43期生卒業式



◇ 生徒探究発表会 ◇

SSH 生徒探究発表会を開催しました

SSH 統括室

2 月 15 日（土）に SSH 生徒探究発表会を開催しました。課題研究に取り組んできた高校 2 年生が主に 2 年間にわたる研究の成果を発表したほか、高校 1 年生の一部が今年から始まった新しい全員探究プログラム SS I での研究計画を発表しました。また、芝浦工業大学の研究室で指導を受けて研究を行った SSC Ⅲコースの高校 3 年生、ベトナム FPT 高校生との共同研究を行った高校 1・2 年生、夏休みの自由研究で成果を上げた中学生なども、それぞれの成果を披露しました。全体で約 300 人の生徒が発表を行いました。

発表が多彩となり、今年度は「研究計画発表」と「研究成果発表」の種別が設けられました。「研究成果発表」では、昨年度と同様にプレゼンセッションに加えてコアタイムセッションも設けられ、生徒たちは発表と質疑を繰り返し行

送辞（抄）

第 44 期生徒会副会長

暖かな風が大津川を流れ、思い出深い城址公園の木々も一斉に芽吹いて春の兆しを実感する季節となりました。卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今日、この日を迎えることができた先輩方の表情には新たな未来への期待と、芝浦工大柏で過ごしてきたかけがえのない日常のいとおしみ、そして、誇りがあふれているように感じます。この三年間、先輩方は日々様々な努力を重ね、それぞれの進むべき道を拓いてこられました。

先輩方が入学された 2022 年はまさしく新型コロナウイルスが流行していました。新たなオミクロン株流行の危惧など、何か、未来に対する不安があったと思います。そんな中でも先輩方は決してくじけることはなく、前を向き続けました。北海道研修旅行で大きな学びを得、充実した学校生活を送る先輩方の姿は私たち後輩にとっても非常に大きな励みになりました。

増穂祭でも、行事を成功させるために努力を惜しまない姿勢が印象的でした。第 44 回増穂祭のテーマは「Limit Break」（限界突破）でした。コロナの制限がまだ残るなか、室内ジェットコースターや喫茶店などの完成度の高いクラス企画を作り上げてまさに「限界を突破」していってました。

さて、そんな先輩方も、いよいよこの学校を巣立られます。これからはそれぞれの道を進み、新しい環境での生活が始まります。卒業を迎える先輩方は今、未来を思い期待で胸が膨らむのと同時に不安も感じていらっしゃるかもしれません。しかし、先輩方がこの学校で培った努力やかけがえのない経験は、必ずや支える力になるはずで。先輩方ならどんな未来においても力強く道を切り拓いていけると私たちは信じています。

そして、私たち在校生は先輩方が築いて下さった伝統、よい雰囲気を引き継ぎさらに発展させていきます。今度は私たちが後輩たちの目標となれるように精進して参ります。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康と益々のご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

い、発表スキルを高めるとともに、参観者との議論を通して理解やアイデアを広げることができました。

発表生徒のほか、中学校 3 年生と高校 1 年生の全員が参観者として発表会に参加し積極的に質疑応答をしていました。また、生徒保護者、教育関係者約 70 名が参観のため来校しました。教育関係者の数は昨年度に比べて倍増しました。例年と同じく卒業生 TA（ティーチングアシスタント）も参加しました。



答辞（抄）

第 43 期生徒会長

3 年前、真新しい制服を着て、大きな下駄箱に小さな不安を押し込み、息切れと心臓の高鳴りを感じながら、長い階段を一步一步と上り始めました。学校生活に慣れてきたころ、私たちは 2 年生になりました。教わる立場から、教える立場になり、教える難しさを知りました。部活動や文化祭など、様々なイベントで先輩や後輩と関わり、私たちも次第に成長していきました。6 月には北海道に研修旅行に行き、アイヌ文化を学んだり川下りをしたり、花火や夜景をみたりしました。普段とは違う先生方や友達の表情が見ることができ、新鮮に感じられました。10 月には文化祭が行われ、大いに盛り上がりました。久しぶりのコロナの規制がない文化祭。中心学年として取り組んだ文化祭は、ただ楽しむだけではなく、苦勞も多かったけど、仲間たちと案を出し合って最高のものを作り上げました。

最高学年になり、楽しむだけではなく責任がある立場になると、行事やクラブ活動の見え方が大きく変わりました。進路に対する不安が日に日に大きくなり、未来への迷いを感じるが多くなりました。そんな時には先生方が親身になって相談に乗ってくださり、同じ学び舎で学ぶ仲間たちが心の支えとなり、共に励まし合いながら乗り越えてきました。

もちろん、美しい思い出ばかりではなく、上手くいかない日もありました。言い合いになることもあれば、涙を流すこともありました。それでも、仲間たちと切磋琢磨し、共に過ごしたこの 3 年間は、私にとってかけがえのない宝物です。

思い出が詰まったこの場所にいられるのも今日が最後となりました。振り返ってみればあつという間で、本音を言うと、もう少しここにいたかったという気持ちもあります。しかし、私たちは今日卒業します。寂しい、そう思えるほどのたくさんの思い出と、ここで培った経験とを胸に、それぞれの道へと羽ばたいていきたいと思います。

3 年間、いや 6 年間。たくさんの青春を本当にありがとう、芝柏。さようなら。

最後に、私たち卒業生を支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。私たちがここまで歩んで来ることができたのは、皆さんの温かい支えがあったからこそです。そして、私たちがこれから歩む未来が明るく希望に満ちたものであることを願い、卒業生一同、心より感謝の気持ちを込めて、答辞とさせていただきます。

SSH 生徒の取組の紹介

高校生国際シンポジウムに参加しました

2月19日から20日にかけて宝山ホール（鹿児島市）にて開催された高校生国際シンポジウムに、本校生徒3チーム7名が参加しました。発表テーマ：「ゲル法を用いた大粒径アラゴナイトの合成」、「古代と現代の精神構造の同質性と異質性 ―上代日本語『とよ』『とよむ』を手がかりに―」、「エステル合成における適切な触媒酸の量」。厳正な書類審査を通過して本番に臨んだ彼らは、第一線の研究者を目の前にしても堂々と発表し、鋭い質問にもしっかりと答えていました。また、全国から多様なテーマを探究してきた生徒たちと交流し、探究の成果を活かして進路につなげていった大学生・社会人の座談会や大学の先生方の講演を拝聴し、たくさんの刺激を得て帰ってきました。参加生徒・教員含め今回のシンポジウムで得た経験を各自の課題に落とし込んで、探究を続けていきたいと思います。



OIST 課題研究の成果を英語で発表しました

1/29（水）に沖縄先端科学技術大学院大学（OIST）で開催されたイノベティブ・サイエンス・フェスタ2025に学校設定科目GSⅡ、SSⅡに参加している高校2年生の2チーム（6名）が参加しました。「Development of High-Performance Paper Straws（紙ストローの品質改善）」、「Ammonia absorption capacity by food residues ～ Reusing coffee grounds and orange peels for deodorizers ～（食品残渣を用いたアンモニア吸着能の検討）」というテーマでそれぞれのチームが英語で発表し、OISTに所属する大学院生と英語で議論しました。この経験が英語で発表することに対するモチベーションの向上につながったようです。



SSH ベトナム研修に参加して

6日間のベトナム研修では、日常生活では得られない貴重な経験をしました。到着してまず驚いたのは、バイクの多さと排気ガスによる白っぽい空気です。日本では見慣れない光景が印象的でした。研修の一環として訪問したホンダ工場やゴミ処理場では、日本の技術や機械が導入されており、環境問題は国際的な協力が必要だと改めて感じました。また、共同研究を行っているFPT高校を訪問し、文化の違いに戸惑うこともありましたが、FPTの生徒たちの高い英語力やプレゼン能力に良い刺激を受けたくさんの学びがありました。それぞれの国のお土産を交換したり一緒に昼ご飯を食べたりして仲も深まって楽しかったです。この6日間は新たな気づきの連続で、大変充実したものとなりました。研修に関わってくださった先生方、ガイドさん、FPT高校の皆さんに感謝申し上げます。



Topics

国際部

私のダンス留学

私はトビタテ留学JAPANに合格し昨年の夏、イギリスに舞台芸術をテーマとした留学に行ってきました。芸術に溢れた街並みや憧れである本場の舞台に毎日感動する一方で日本のバレエ教育や鑑賞マナーの面の優れている部分にも気が付かされました。ダンスサマースクールを受講し世界的に有名なカンパニーのトップダンサーらのレッスンを受講し刺激を受けました。また、この留学で得た沢山の人の繋がりは私にとって一番の宝物となりました。ホストマザー、私と同じ夢を持つ各国からの仲間、改札に挟まった時に助けてくれたおじさん、トビタテの仲間たち、応募資料と一緒に考えてくださった先生、合格を喜んでくれた友達や家族など…感謝したい人が沢山いることがとても幸せです。今回の留学で私が目指している場所を再確認することができました。これから自分の夢をずっと追いかけていきます。

教育振興部

PCR 実験講座を実施しました

東邦大学理学部の佐藤浩之教授によるPCR講座を開催しました。内容は、自分のほおの細胞を採取してDNAを取り出し、お酒に強いかを調べるというものでした。反応の待ち時間中に、佐藤先生が遺伝子に関する様々なお話をされ、途中で笑いが起こるなど終始楽しい時間を過ごせていたようでした。また、同時間に芝浦工業大学教授奥田先生にもお越しいただき、アントレプレナーシップ講座を行っていただきました。高校1年生、2年生の30名が参加し、4時間にも及ぶ実験講座の最後に結果が出るなど歓声が上がリ、興奮する様子が見られました。



PTA 情報

本年度活動報告

PTA 会長

本年度も各学年のクラス懇親会をはじめ、様々な活動を行いました。7月と2月に高2生・中3生対象の仕事塾、10月に一般来場者を迎えての増穂祭、11月には川谷潤太先生をお招きして文化講演会を開催いたしました。さらに3月には中3の巣立ちの会、高3の卒業を祝う会を予定しております。また、花壇整備活動の方も学年の垣根を越えて活発に活動できました。この1年間、保護者の皆様、先生方のご協力のもと、平常年度の活動ができましたこと、大変感謝しております。

来年度も引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今号は各学年代表の幹事さんに1年を振り返っていただきました。

中1学年代表

大きめだった制服もすっかり着こなすようになり子供たちの成長を嬉しく思います。様々な行事を通して子供たちの様子がわかり、懇親会を通して保護者の方々とも交流を持つことができ、とても充実した一年になりました。1年間、先生方をはじめ、保護者の皆様、幹事の方々には大変お世話になり感謝申し上げます。

中2学年代表

増穂祭や保護者懇親会の準備・参加を通じて、生徒たちの成長を見守り、保護者同士のつながりを深める貴重な機会となりました。増穂祭では生徒たちの真剣な姿に感動し、懇親会では学校生活の様子を共有することで、より一層の親睦が図れました。幹事の皆様、先生方のご協力に心より感謝申し上げます。1年間ありがとうございました。

中3学年代表

日々の学校生活、ニュージーランド海外研修などの多彩な学校行事で、子どもたちが更に成長した1年となりました。保護者の皆さまも積極的に行事に参加くださり、懇親会や増穂祭、巣立ちの会を通じて交流を深め、卒業を迎えることができました。ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。

高1学年代表

高入生が加わり子ども達の視野が大き

後援部情報

後援部活動報告

後援部部長

後援部は、PTA会費の一部を生徒や教職員の教育環境に役立つよう、どのような支援をするか検討し、実行していく役割を担っています。その為、主に施設・設備並びに教育用備品、クラブ活動に関する支援について、中長期的視点をもって検討を行っています。今年も卒業式、入学式の季節になります。卒業する皆様、ご卒業おめでとうございます。入学する皆様、ご入学おめでとうございます。後援部は今年度も、たくさんの支援をいたしました。カフェテリアのロールカーテン設置、グラウンド倉庫、生徒会マイク設備、コンピューター部のパソコン、カフェテリア内電子レンジ2台、進路室書棚、茶道部冷蔵庫、バスケット部レフェリーウエア、カフェテリア製氷機、HDビデオスイッチャー、野球部ラプソード、Global.Link.Singapore 旅費代金支援、多数の懸垂幕作成、などの支援を致しました。本年後援部の活動としましても、昨年同様、増穂祭に出店しました。後援部カフェで頂いたアンケートを参考に、学校内の施設やクラブ活動の支援、皆様が快適な環境で学校生活を過ごして頂けるように支援をしていきたいと考えております。何かお困りの事がありましたら、後援部の事を思いだして下さい。今年も部員全員で元気に皆さんに喜んで頂ける、支援を考えて行きます。引き続き、皆様のご理解とご協力を頂きたい、宜しくお願いします。



高校生徒会本部

高校生徒会本部活動報告

生徒会長

文化祭のバルーンスカイやエンディングセレモニー拡張などが初めての44期生徒会での活動となりました。生徒総会議案編ではオンラインの質問募集を実施したことで、普段より活発な議論が行われました。

去年の年末には生徒総会議案編の議案やそれぞれの公約についての要望書を提出し、先生方と協議会を行いました。正式な協議会を実施したのは初めてでしたが、生徒と先生方の意見を交えることで改善点などを発見することができました。審議が終わり次第、迅速に進めていきます。

会則変更により44期生徒会は今年8月までが任期となります。2025年度も宜しくお願い致します。



中高吹奏楽部 報告とお知らせ

12月22日（日）に本校グリーンホールにてアンサンブルコンサートを開催し、保護者の方をはじめ、多くの方にご来場いただき、温かい拍手の中で無事終演を迎えることができました。ご来場下さいました方々、また、ご協力下さいました皆様に部員一同、心より感謝申し上げます。

また、2月には東葛飾地区個人コンクールに中高合わせて3名が出場しました。銀賞を2名、銅賞を1名それぞれ獲得いたしました。

4月20日（日）柏市民文化会館にて（開場14:30/開演15:00）、第38回定期演奏会を開催いたします。

「アルヴァマー序曲」「オーメンズ・オブ・ラブ」「リメンバー・ミー」など多彩な曲目に挑戦する予定です。

皆様にご満足いただけますよう部員一同懸命に励んでおります。ご家族、ご友人をお誘いあわせの上、会場に足をお運び下されば幸いです。

中学生徒会本部

中学生徒会活動本部報告

生徒会長

今年度は生徒会にとって、とても充実した一年となりました。新入生歓迎会に始まり、生徒総会予算編、短冊の作成、文化祭での学校案内ツアー、運動会、生徒総会議案編、そして柏餅の作成を行いました。個人的に柏餅の作成に思い入れがあり、色々なクラスにクラスページを描いてもらって回収をする際に、どこが終わっていないのかの管理をするのが難しかったです。しかし、大変な一方で大きなやりがいもありました。皆さんの原稿が思い入れのあるものばかりで、とても大切な仕事をしている気持ちになりました。忙しさにつらい思いをしましたが、「みんなに選んでもらったんだ」と身を奮い立たせ、活動を行えました。皆さんの学校生活を少しでもより良くするお手伝いはできたでしょうか？どの行事においてもですが、生徒会があるのは皆さんの協力のおかげです。一年間、ありがとうございました。

新聞切り抜きコンクール

新聞切り抜きコンクール 6名が表彰 社会科

今年度も中学2年生が東京新聞主催の第21回新聞切り抜き作品コンクール中学生の部に参加致しました。

結果、中2の伊藤さんが優秀賞を受賞しました。また、初めて参加した高校生の部では、昨年まで中学生の部で2年連続で優秀賞を受賞した生徒の他、3名が入選、1名が努力賞を受賞しました。

2月16日には東京新聞本社で、優秀賞の受賞式がありました。コンクール初開催から21回、本校社会科の取り組みが継続して注目を集めていることは、大変喜ばしいことです。新聞購読者が減少傾向にある中、今後も新聞の持つ重要性を生徒たちに伝えていきたいと思っています。



中学2年生職場体験

職場体験について

中学25期生は2月13日（木）と14日（金）の2日間にわたり、職場体験を実施しました。今年度は初めて2日とも同一の事業所を訪問して職場体験を行ない、体験先を46か所に増やしました。生徒の書いたお礼の手紙を読むと、海上自衛隊の航空基地やみずほ銀行など、普段の学校生活では得られない体験をした者、マクドナルドやコメダ珈琲で、飲食店のバックヤードの大変さを体験した者など、仕事をするものの意義、そして自分たちの生活を支えてくださっている人々への感謝が感じられました。次年度は仕事塾があるため、さらに学問と職業をつなげるキャリア開発になれば、と考えています。



探究活動

アントレプレナーシップ教育活動報告

2024年12月26日に本校生徒3名が、SHIBUYA QWSで開催された「2024中高生がやってみた！アントレプレナーシッププログラム成果報告会」に参加し、プレゼン発表をさせていただきました。祖父母と孫同士で気軽に写真を共有できるアプリを提供するビジネスアイデアを発表し、専門家からの質疑にも丁寧な答えを返していました。プレゼン終了後は参加した生徒、大学の先生方、起業家の方々との交流会が開催され、幅広く意見交換をしたことにより視野が広がったと思います。次年度も本イベントを始めとしたビジネスコンテストに参加する生徒達を応援していきたいと思っています。

